

国際シンポジウム

日英仏
同時通訳

アスベスト補償・救済制度の国際比較

International Comparison of Compensation and Relief System for Asbestos Damage

2005年6月の「クボタ・ショック」以降、日本におけるアスベスト問題の深刻な状況が次々と明らかになり、石綿新法の制定、大阪泉南地域や首都圏における政府・企業に対する訴訟など、かつてない早さでアスベストへの社会的対応が進んでいます。現在、各国においてもそれぞれの社会構造や歴史の違いを反映して、様々なアスベスト問題に対する公的施策や司法制度の展開がみられます。しかしながら、いまだ各国とも十分な被害の補償・救済と社会的公平を統合したアスベスト対策の制度を確立できてはいません。現在、アスベスト問題は発展途上国へ急速に拡大しており、まさに地球規模の環境問題となっています。本国際シンポジウムでは、アメリカ・ヨーロッパ・アジアの各国におけるアスベスト問題の第一人者の方々による討論をつうじて、この人類史上最大の社会的災害に対して、国内的・国際的な対策のあり方を探求していきます。

日時 2008年 **11/22**. sat
13:00 ~ 17:00

場所 立命館大学衣笠キャンパス
創思館ホール

主催 立命館大学政策科学部・
大学院政策科学研究科

第一部 基調講演

ステファン・レビン マウントサイナイ医科大学准教授 (アメリカ)
「アメリカにおけるアスベスト被害疫学調査の歴史と現状」

ステファン・レビン
アメリカ、ニューヨーク、マウントサイナイ医科大学准教授および I.J. セリコフセンター医長。
職業医学を専攻し、9.11 の倒壊現場の解体作業労働者のアスベスト曝露による健康被害モニタリングやリビーモンタナでのアスベスト環境曝露の調査など、アメリカ国内でのアスベスト被害調査に携わる。

第二部 シンポジウム

コーディネータ **森 裕之** 立命館大学政策科学部准教授

パネリスト **ベネデット・テラッチーニ**
元トリノ大学教授 (イタリア)

ベネデット・テラッチーニ
イタリア、元トリノ大学教授 (がん疫学)。
疫学者の立場から、トリノ近郊の町カザーレモンフェラートに立地していた石綿水道管工場における健康被害の実態調査など、イタリア国内のアスベスト被害調査に携わる。

カン・トンムク
釜山国立大学医学部予防・労働医学科准教授 (韓国)

カン・トンムク
韓国、釜山国立大学医学部予防・労働医学科准教授。
釜山において集中的に立地していたアスベスト製品工場を対象とした疫学調査の実施を始めとして、韓国におけるアスベストによる健康被害の実態解明に携わる。

ステファン・レビン
マウントサイナイ医科大学准教授 (アメリカ)

森永 謙二
前独立行政法人労働安全衛生総合研究所部長、前中央環境審議会石綿健康被害判定小委員会委員長。
日本でも早くからアスベスト問題に医学の知見を向けてこられた第一人者であり、厚生労働省や環境省のアスベストに関する委員会の座長も務められ、アスベスト関連疾患の判定基準の作成に携わる。

森永 謙二
前独立行政法人労働安全衛生総合研究所部長、
前中央環境審議会石綿健康被害判定小委員会委員長 (日本)

ジャン・ポール・テソニエール
弁護士 (フランス)

ジャン・ポール・テソニエール
フランス、弁護士。
フランスでアスベスト被害者救済に携わる最も著名な弁護士。大企業への民事訴訟のみならず、アスベスト被害者救済基金への訴訟も行う。現在、国家の不作為を問う大規模な国際刑事裁判を展開中。

コメンテーター **宮本 憲一** 立命館大学政策科学部客員教授

事前申込制
・
入場無料

- ・ 申込方法：申込用紙を下記 URL (政策科学部 HP) 内よりダウンロードして、FAX で送信してください。
URL : <http://www.ps.ritsumeai.ac.jp/>
- ・ 申込締切日：2008年11月14日 (金)
- ・ 問合先：立命館大学政策科学部事務室 tel.075-465-7877 fax.075-465-8281

※なお、応募者多数の場合は、会場の都合によりご参加いただけないことがありますのでご了承ください。